

当たり前の生活の作り方

大洗町立南中学校 1年 大久保 佑真

僕たちの生活にとって欠かせない存在の学校や病院。これらはあって当たり前のように感じますが、これらを成り立たせている一つが税金です。

税金とは、政府や地方自治体が集めているお金のことです。税には、買い物の時などによく見る消費税の他にも、給料から天引きされる所得税や自動車を持っている人が納める自動車税などがあり、様々な形で僕たちの生活を支えています。

この集められた税金で学校などの他にも図書館や体育館などの公共施設も成り立っています。さらには、怪我や病気になった時に高額な医療費を払わずに済むように、国が一部を負担する仕組みも税金によって成り立っています。警察や消防の活動や、橋や道路の交通機関、公園の整備など僕たちが安定した生活を、送れるために税金は使われています。

僕は身の回りのいろんな税が無くなると物は安くなり、金銭的負担が無くなっていいなと思いますが、自分たちの生活や世界のことを考えると良いところばかりではなさそうです。

なぜかと言うと、医療費や教育費が自己負担になったり、公共機関が使えなくなったりして何かと不便になっていくからです。税金が無くなるということは社会の土台そのものが崩れてしまうことです。さらには、警察や消防士の給料も税金で賄われているのでこうした仕事をする人がいなくなり暮らしの安全を守るサービスが受けられなくなるかもしれません。こうなってしまうないように、一人一人がお金を出し合ってより良い社会を築くことが大切だと思います。

次は世界を見てみます。世界では税の在り方が様々です。北欧のスウェーデンでは税は高り方ですが、代わりに教育費や医療費がほとんどかからなかったり、国からの手厚い社会保障制度が整ったりしています。一方アメリカでは、税金は比較的低い方に設定されていますが、その代わり病気になったときなどの高額な医療費などは自腹で払うのが一般的です。また、大学に行く時には、自分で学費を賄うために多額のローンを組む人も少なくありません。この二つはどちらが優れているかではなく、みんなで支え合う社会が個人の意見を重視する社会の違いを表しています。

日本は、みんなが安心して暮らせる社会を目指して、税金で様々なサービスを支えています。今はあまり税金自体に自分たちは関与しないかもしれませんが、将来僕たちも大人になって働き始めると、今よりも多くの税金を納めるようになります。税金を納めることはどんな社会にしたいかを考えるきっかけになります。僕たちが当たり前と思っている生活は、僕たち自身が税金を通じて社会に関わることで作られています。